

夏休み！命を守る② ～防災・減災～

命を守る、今回は災害から命を守る行動についてです。

今月3日に静岡県熱海市で発生した土石流で多くの方が亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。発生後には停電・断水等のライフラインの遮断、今なお行方が不明の方、自宅に住めなくなった方など、改めて災害の怖さを感じます。これは、決して遠くで起こった他人事ではありません。68年前のきのう、昭和28年7月18日は「7.18水害」の日です。私たちが毎日を過ごしている保田中学校も水害の大きな被害に遭いました。土石流と水害は少し違いますが、大雨の後起こりうる災害という点で共通しています。地震や津波はいつ起きるかわかりませんが、大雨による河川の氾濫についてはある程度予測することができます。台風に伴う大雨などについての備えが必要です。(以下は、昨年のやすちゅう11号とほぼ同じ内容ですが、再度読んでください。)

防災とは災害が発生しないように行う取り組み、減災とは災害が発生したときに、その被害を最小限に食い止めるための取り組みをいいます。

では、「災害に備える」とは、具体的にどういうことをすれば良いのでしょうか。

まず、自分たちの住んでいる地域の避難場所や浸水域を知ることです。そのためにはハザードマップを確認をしましょう。有田市のホームページに「津波」と「洪水」の2種類のハザードマップが掲載されています。(今年、更新されています。各家庭に配布もされました。)地図の面には浸水域が色分けされています。啓発面にはインターネットによる情報入手先、いざというときの連絡先、災害用伝言サービスの使い方、非常持出品・備蓄品の一覧、地震被害を防ぐポイントなどが掲載されています。

また、有田市では、各学校に災害用の備蓄品として非常食、水、毛布、発電機、マットなどを保管しています。非常食の中には賞味期限が近くなってきているものがあります。これらを使った実習を学校で実施したかったのですが、新型コロナウイルス感染拡大のリスク防止のため実習をすることが難しくなってきました。そこで、生徒の皆さんに持って帰ってもらい、この非常食を作って食べながら防災や減災についてご家庭で話し合ってもらおう機会にしたいと考えています。

種類は選べませんが3個ずつ持ち帰ってもらいます。賞味期限の近いものがあるのでよく確認してください。お湯で15分、水でもできます(60分)。お茶碗に約2杯分です。おうちで話し合ったことを聞かせてくれるとうれしいです。(ちなみに、カップ麺も水を入れて30～60分ほどで食べられるようになると聞いたことがあります。試したことはないのですが…)

